



毎月第1・第3日曜日発行
広報みたかはシルバー人材センターの
会員がお届けしています。

発行：三鷹市
編集：秘書広報課
〒181-8555 三鷹市野崎1-1-1

市役所代表電話
☎0422-45-1151(代)

ホームページ
<http://www.city.mitaka.tokyo.jp/>

携帯サイト
<http://www.city.mitaka.tokyo.jp/i/top.html>

今号の紙面から

年始の診療のご案内	2
年始のごみ収集日程	2
4月からの保育園入園申請	3
文学講演会「太宰治の戦後」.....	3

新春号

太宰に触れる 三鷹の風景を読む

決定版全集

新発見草稿(人間失格、
パイ、他27篇)・メモ・手
対比して示し、併説を
併せて、最新の著作

1180頁 2,300円(税別)

三鷹に住み、数々の傑作を生み出した太宰治
彼には、三鷹を舞台にした作品がいくつもあり
ます。多くの教科書に登場する「走れメロス」
にも、当時の三鷹の情景が映し出されているの
ではないかと言われています。
今年には太宰治没後60年。この機会に彼の作品
に触れてみませんか。今の三鷹の風景と重ねて
読むと、新しい発見があるかもしれません。

私は早速、三鷹の馴染のトンカツ屋に案内した。そこの女のひとが、私
たちのテーブルに寄って来て、私の事を先生と呼んだので、.....甚だ具
合いのわるい思いをした。

『帰去来(1943年)』



太宰の作品には、三鷹駅周辺の飲食店が
たびたび登場します。また、「駅から、三
曲りも四曲りもして歩いて二十分以上かか
る畑地のまん中」、現在のみたか井心亭の
近くには彼の居宅がありました。写真は太
宰がよく歩いた本町通り。道沿いには今年
3月、太宰治文学サロンがオープンします。

吉祥寺で降りて、本当にもう何年振りかで井の頭公園に歩いて行って見
ました。.....坊やを背中からおろして、池のはたのこわれかかったベン
チに二人ならんで腰をかけ、家から持って来たおいもを坊やに食べさせ
ました。

『ヴィヨンの妻(1947年)』



数々の太宰作品に登場する井の頭公園。
『ヴィヨンの妻』に描かれているのは、戦
時中に「池のはたの杉の木が、すっかり伐
り払われて、何かこれから工事ではじめ
られる土地みたいに、へんにむき出しの
寒々とした感じ」の、今からは想像もつか
ない公園の姿です。

毎日、武蔵野の夕陽は、大きい。ぶるぶる煮えたぎって落ちている。...
...ここは東京市外ではあるが、すぐ近くの井の頭公園も、東京名所の一
つに数えられているのだから、この武蔵野の夕陽を東京八景の中に加
入させたって、差支え無い。

『東京八景(1941年)』



写真は、三鷹電車庫の上に架かる跨線橋
から見た夕陽。この陸橋は、太宰が好んで
訪れた場所です。彼が、「メロスは胸の張
り裂ける思いで、赤く大きい夕陽ばかりを
見つめていた。走るより他は無い」と書い
たとき、こんな夕陽が脳裏にあったのでは
ないでしょうか。

私は、家の方角とは反対の、玉川上水の土堤のほうへ歩いていった。...
...玉川上水は深くゆるゆると流れて、兩岸の桜は、もう葉桜になってい
て真青に茂り合い、青い枝葉が両側から覆いかぶさり、青葉のトンネル
のようである。

『乞食学生(1940年)』



当時の玉川上水は今と違って流れが速
く、地元の人たちは「人喰い川」と呼んで
恐れていたそうです。メロスが「ざんぶと
流れに飛び込み、...押し流されつつも、
見事、対岸の樹木の幹に、すがりつく事が
出来た」という濁流は、そんな玉川上水を
イメージしたものかもしれません。

参考文献 山本貴夫「太宰治と三鷹」(『太宰治展-「斜陽」の時-』・1992年・三鷹市文化振興事業団)
渡部芳紀「三鷹太宰文学散歩」(『没後50年太宰治展-心の王者-』・1998年・三鷹市教育委員会)

新春対談 4・5面

俳優の永島敏行さんと清原市長が、
「農業」と「食」について語ります。



市長コラム

今こそ、心新たに、
「高環境・高福祉」の
まちづくりを
三鷹市長 清原 慶子

新年を迎え、皆様のご健勝と多幸
を心からお祈り致します。
今、日本は世界有数の経済大国と位
置づけられているにもかかわらず、若
い世代を含む失業者の増大や所得格差
国の社会保障制度改革の影響等に対す
る人々の不安は拡大してきています。
私たちが多くの課題に直面している
今、市制施行後58年目の新春を迎えて
いる三鷹市が当初から掲げてきたの
は「高環境・高福祉のまちづくり」に
よる「人間のあすへのまち」を目指す
ことです。どんなに社会が変化しよう
と三鷹市は、市民本位の立場で高環
境・高福祉のバランスをはかるような
自治体経営をしてきました。
さて、先月、日経新聞が公表した環
境・経済・暮らしのバランスのとれた
持続可能な都市(サステナブル都市)の
ランキングで、三鷹市は全国の市区で
第1位となりました。
環境では、「緑と水の公園都市」をめ
ざしつつ、「環境基金」を創設し、省エ
ネや新エネルギー利用の促進を奨励
し、庁内でも環境管理の国際的認証I
SO14001の認証を取得し、環境
と財政を両立させる業務改善に力を入
れてきました。
福祉では、国が医療・保健・福祉の
制度改革を急速に進める中、独自のセ
ーフティネットをはかりつつ、少子
長寿社会に対応したきめ細かい事業を
実践してきました。
今こそ、心新たに、「高環境・高福
祉」のまちづくりを皆様と一緒に進
めて行きたいと思えます。